

「街路樹の倒伏対策の手引き」



環境研究部 緑化生態研究室 室長 松江 正彦 主任研究官 飯塚 康雄

(キーワード) 街路樹、倒伏、危険度、診断、維持管理

4.

環境と調和した社会の実現

1. はじめに

台風等の強風により倒伏する可能性を有する街路樹は、交通障害や人的障害を引き起こす危険性を有しており、過去には人身傷害に繋がる事故も発生している。

本手引きは、街路樹の倒伏等に繋がる危険性を最小のものとするため、樹体の構造的な欠陥等を把握する診断方法と危険性を改善する処置方法を提案したものである。

2. 「街路樹の倒伏対策の手引き」の概要

街路樹の倒伏対策は、以下に示す手順によって進められる(図1)。

(1) 予備診断

予備診断では、多数の街路樹のなかから、樹木健全度調査、植栽環境調査が必要となる危険性を有する樹木を抽出するために、外観から簡易的に樹木形状や活力の異常、樹体の欠陥の有無を把握する。

(2) 樹木健全度調査

樹木健全度調査では、台風等の強風時に発生する倒伏の主な原因となる、

- ①樹木の生育不良による根系伸長不良、
- ②樹体の傷から侵入した木材腐朽菌により生じた空洞や腐朽等の構造的な欠陥による支持強度の低下等について把握する。

(3) 植栽環境調査

植栽環境調査では、生育条件調査として、植栽地や気象条件、支柱等の保護材の状態を把握し、障害対象調査として、街路樹が倒伏した際に発生する障害を事前に予測する。

(4) 改善的処置

改善的処置では、健全度調査により把握した危険度が高い樹木について、街路樹としての機能を考慮した上で、危険性を解消、あるいは低減するために必要な処置を行う。

(5) 倒伏検証調査

街路樹に倒伏等の障害が発生した際は、倒伏等に至った原因を明確にした上で、樹木健全度調査や改善的処置の適正を検証する。

3. 成果の公表

本成果は、国土技術政策総合研究所資料第669号として発行した。本手引きが、健全な街路樹を維持し、みどり豊かな生活環境の保全に寄与できることを期待している。

<http://www.nilim.go.jp/lab/ddg/> (緑化生態研究室)

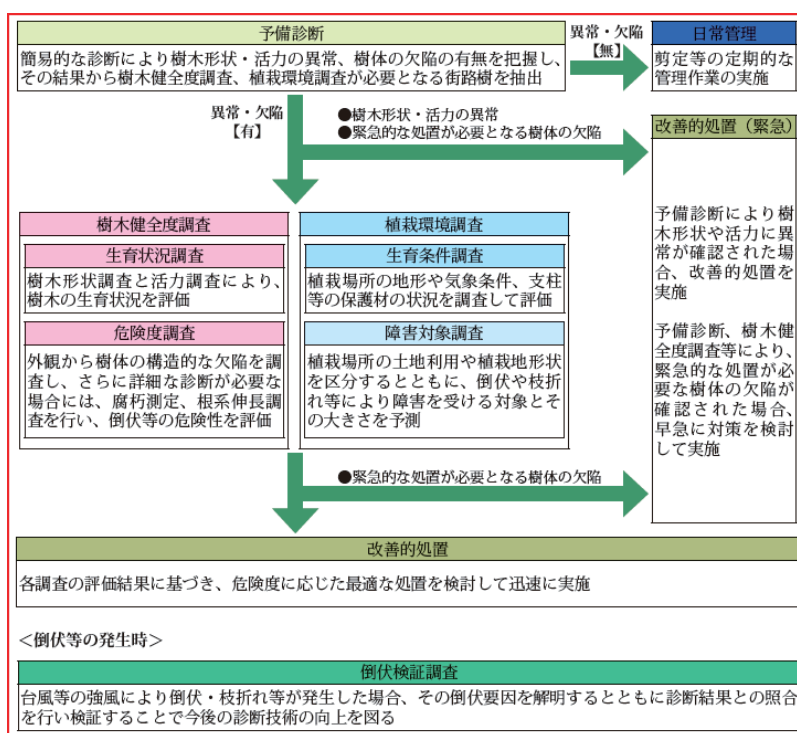


図1 街路樹の倒伏対策のフロー